

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ひだまり水沢森下児童課 児童発達支援		
○保護者評価実施期間	令和7年 1月 6日		～ 令和7年 1月 15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	2	(回答者数) 1
○従業者評価実施期間	令和7年 1月 6日		～ 令和7年 1月 14日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 2 月6 日		

○分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	こどもたちの活動に合わせた環境整備	危険箇所について職員全体が注視しており、発見次第すぐに対処している。また、テーブル等の配置も活動に合わせて臨機応変に変更し対処している。	こどもの成長に合わせ、テーブルなどの配置や物品等の整理を行っていく。
2	こどものことを十分に理解した上で、支援計画を作成	職員が共通の意識の下、日々の支援や余暇の様子などをみて、支援計画作成時全員で意見を出し合っている。	よりこどもの今後を見越した支援計画作成に努める
3	通所を楽しんでもらえるような環境	こどもの興味関心、好きな事などを考慮し活動などで好きな物等を取り入れ積極的に活動に参加できるように行っている。	こどもとより積極的に関わり、より楽しんでもらえるように努めていく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者との意思疎通、情報共有	職員によって、送り迎え時などでの伝え方に差があること 簡潔に話すことも大事だが、詳しく話すべき内容は詳しくお伝えし、保護者との意思疎通や情報共有に努める必要がある。	その日の担当ではない職員が対応する際にも、必ず担当者が活動の様子や余暇の過ごし方等を情報共有し、保護者からの意見や要望などを職員全体で共有する。
2	保護者等も参加できる研修会の実施	法人主催等の研修の案内を連絡袋などに入れているが、送り迎え時等口頭での案内や玄関先への提示等が少なかった。	玄関先への提示、送り迎え時に口頭での案内等を行い、研修会開催について積極的に案内していく。
3	食物アレルギーをもつこどもの対応	食物アレルギーを発症するこどもが増えており、おやつ提供を行う上で誤食しないように対応する必要がある。	表等にまとめ提示し、誤食しないように対応する。また、おやつ購入時には成分表を確認し、必要に応じ保護者に実物を見せながら確認していただく。

	公表	保護者等からの事業所評価の集計結果
--	----	-------------------

事業所名 ひだまり水沢森下児童課 児童発達支援

公表日 令和7年3月31日

利用児童数 令和7年1月1日 2名 回収数 2枚中1枚

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	1					
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	1					
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	1					
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	1					
適切な支援の提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	1					
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	1					
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	1					
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	1					
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	1					
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	1					
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	1					
保護者への説明等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	1					
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	1					
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	1				やや少なめと感じました	今後、研修会や情報提供の機会等積極的に発信していく。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	1					
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	1					
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	1					
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	1					
19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	1						

	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	1			日々の送り迎え等でも支援方針の話をすることがありますが、特に重視したい所等を共有して頂きたいです。	貴重な意見ありがとうございます。支援方針について重視したい点につきましては、送り迎え時だけでなく、連絡帳等も合わせて使いながらお話ししていきます、より共有できたらと思います。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	1				
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	1				
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	1				
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。			1		
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	1				
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	1				
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	1				
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	1			楽しみにしています	ありがとうございます。子ども達が通所する事を楽しみにしていてくれて幸いです。今後も通所を楽しみにしていただけるよう支援を行っていきます。
	29	事業所の支援に満足していますか。	1				

公表 事業所における自己評価結果

事業所名		ひだまり水沢森下児童課 児童発達支援				公表日	令和7年3月31日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6		スペースを広く取れるよう整理整頓を心掛けている。	今後も整理整頓を行いスペースが狭くならないように整備していく。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6		規定に沿って、管理者・児童発達支援管理責任者・児童指導員が配置されている。	医療的ケアを必要とするこどもが利用となった際には、多機能型伊集所である利点を生かし、看護職員を含めた支援体制を整える。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6		事業所の構造上、階段がある為完全バリアフリー化は難しいが、絵カードや写真などを使ったスケジュールの提示や各部壁にイラストを付けて、わかりやすく伝える等適切に配慮している。	個々の障害特性に合わせた情報伝達的手段を今後も模索しながら適切に行っていく。 危険箇所を発見次第、早急に対処していく。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6		衛生管理マニュアル、感染マニュアルに沿って手洗い・手指消毒の徹底、定期的に換気、支援ツール等の消毒を行い、衛生管理を徹底している。	経年劣化しつつある玩具等がないか確認し、子ども達が安全に快適に過ごせるようにする。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6		必要に応じ、静養スペース等として機能訓練室を開放している。	今後も個別の部屋や場所を使用できるように環境整備に努めていく。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	6		支援の提供に関する記録を連絡帳を通して行い、支援の質向上と、職員間での情報共有を図っている。	職員が意見を積極的に話せるような環境整備を今後より強化していきたい。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		保護者向け評価表の内容について、職員と情報共有し業務改善に繋げている。	保護者の意向等を把握し、改善に向けた話を行っていく。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		朝礼や職員会議等で発言をする機会があるため、業務改善につながっている。	職員会議等で出た意見を、より業務改善に繋げていく。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	5	1	中立的立場の第三者委員がいる	今後第三者の外部評価が行われるよう、法人に働きかける。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6		法人内等で講師を招いての研修会を実施、関係機関主催の研修会等へ参加し、職員の資質向上を図っている。	研修を受講する機会を職員全体により設け、資質向上につなげていく。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6		5領域との関連性を明確した支援プログラムをホームページに公表している。	支援プログラムを公表されていることを、保護者等に発信していく。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	5	1	面談等を通し、ニーズや課題を客観的に分析し支援計画を作成している。	職員全体でこどもと保護者にニーズを客観的に分析し、よりよい支援計画作成を行っている。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6		子どもの年齢や発達の段階だけでなく、別な考慮しなければならない要素とを比較・合理的に判断し、こどもの最善の利益を考慮した検討をおこなっている。	今度も職員と共通理解の下で、検討し作成していく。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6		作成時に職員全体に内容を共有し、計画に沿った支援を行っている。	今後も職員間で支援計画を共有し、計画に沿った支援を行っていく。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6		保護者から頂いた知能検査・発達検査の結果を職員で情報共有し、こどもの適応行動の状況を確認している。	検査の結果について、職員で情報共有すると共に、内容を踏まえた支援方法を検討・実践していく。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6		ガイドラインに沿った子供の支援に必要な項目を適切に設定している。	本人支援、家族支援、移行支援、地域支援の内容について職員全体で共有し、支援内容が具体的にになっているか確認する。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6		発達段階、障がい特性等に応じて、職員も交えてチームで立案している。	今後もチームで活動を立案していく。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		5領域に関連したプログラムを組み合わせ、創意工夫して行っている。	5領域を均等に織り交ぜた活動プログラム作成に取り組み、幼児から高齢者向けなどあらゆる視点から構成している。	

19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	6		年齢や発達状況等に考慮し支援グループを分けて集団活動を行っている。	利用者の年齢や課題を考慮し、活動を組み合わせで行っていく。
20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6		朝礼時に活動内容、役割分担等を確認し合い、連携して行っている。	急な欠勤等があった際にも、事前に活動内容が分かるよう情報共有に努めていく。
21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5	1	職員連絡帳等を活用し、翌日の朝礼に振り返りを行い、支援の振り返りや気づいた点等、情報共有を行っている。	個人連絡帳の内容が職員連絡帳等に記載されているか確認し、情報に漏れがないか確認していく。
22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6		日々の支援の様子だけでなく、特記事項も合わせて記入し、特記事項を含めた支援の検証・改善を行っている。	今後も記録を徹底し、支援の検証・改善に努めていく。
23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6		概ね6カ月に1回全体のモニタリングを行い、支援計画の見直しを職員間で評価している。	職員全体が同じ認識のもと、適切に見直しが行えるように努めていく。
24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6		児童発達支援管理責任者がその時点までの提供状況を踏まえ、情報を積極的に共有し、参画している。	子どもの状況をよく理解した者と判断した職員が参加できるようにしていく。
25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6		子どもを中心とした支援の輪の形成に努めている。	今後も必要に応じて関係機関と連携して支援を行っていく。
26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6		併行利用している幼稚園・認定こども園と支援内容等情報を共有し、相互理解を図っている。	今後も併行利用している幼稚園・認定保育園等と情報共有と相互理解に努めていく。
27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5	1	現在、年中児までしか利用していないが移行まで行っていない。	現在利用されている利用児が就学する際には、小学校・支援学校と情報共有と相互理解に努めていく。
28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組を行っているか。				
29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	5	1	児童発達支援センターと必要に応じて情報共有を行っていたが、助言等を受ける機会が少なかった。	今後も児童発達支援センターと連携し、必要に応じて助言等を受ける機会を設けていく
32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	3	3	併用利用をしている為、活動する機会がある。	必要時には他のこどもと活動する機会を検討していく。
33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6		連絡帳等を通じて保護者と気になること等、日ごろの子どもの状況を伝えている。	更に状況や課題について共通理解ができるように、迎え時等より情報を伝えていく。
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5	1	法人主催のペアレントトレーニングの研修会や講座など情報提供を行っている。	今後も家族などが参加できる研修の機会や情報提供に努めていく。
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6		利用申し込み時に理解しやすいように丁寧に説明を行っている。	より丁寧に分かりやすく説明を行っていく。
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6		支援作成時には、お迎えの際などでこどもや家族の意向を確認し、意思を尊重して作成している。	今後もこどもや家族の意向を確認する機会を設け、支援計画を作成していく。
37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	6		作成時、変更時に保護者に対し対面で丁寧に説明をし、同意を得ている。	保護者により分かりやすく丁寧に支援計画を説明を行っていく。
38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6		寄り引き渡し時等、家族からの相談に対し家族の困窮等を受け止め、助言を行っている。	家族などからの相談等、必要に応じて職員間で相談内容を検討し、助言と支援を行う。

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	4	2	現在、保護者会は法人と別で運営されており、保護者会から来た案内等、玄関に設置・掲載し、保護者同士で交流する機会を紹介している。	保護者懇談会等を開催に保護者同士で交流する機会を設けていく。
	40	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6		苦情・虐待に関する相談を含め、苦情受付担当者・苦情解決責任者・第三者委員を設置し、迅速かつ適切に対応している。	今後も迅速かつ適切に対応していく。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	6		毎月お便りを発行し、活動概要等を子どもや保護者に対して発信している。	お便りだけではなく、ブログ等を活用し活動概要などを発信していく。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6		契約時、文書により保護者等に同意書を得て、ホームページや広報誌等の許諾を得ている。また、研修などで事例提供する際には改めて同意書を頂いている。	写真掲載等改めて一覧表を作成し、ホームページなどの写真掲載について再確認を図る。
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6		丁寧に分かりやすく簡潔に伝えることを意識して、医師の疎通や情報伝達のための配慮をしている。	今後も配慮した情報伝達を行っていく。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	5	1	地域の老人ホームへの慰問を行っており、お便り等で慰問した状況等を発信している。	今後も継続して老人ホームへの慰問を行っていく。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6		それぞれマニュアルを策定し、内容について職員間で読み合わせを行っている。	事故発生時、緊急時等の対応について送迎中、休日時等を想定した訓練を行うことを検討していく。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6		BCPを策定し、2カ月に一度定期的に避難訓練を行っている。	祝日に訓練を行う事が多かった為、今後は長期休暇や土曜等での訓練も検討する。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	6		服薬が新たに増えた、種類が変わった等差格があった際には、保護者より服薬説明書をいただき、常に新しい服薬状況を職員は確認し対応している。	服薬に変わりがない子どもに対して保護者に聞き取りを行い、服薬が変わっている際には服薬説明書をいただくことを依頼する。
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6		利用申し込み時の登録等で食物アレルギーについて確認をし、アレルギーのある子どもについて、保護者より検査結果表を頂いて対応を行っている。	食物アレルギーを持つ子どもを表にまとめ、誤飲がないように徹底する。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6		安全管理に必要な研修・訓練等、安全管理を十分に行っている。	今後も継続して、安全管理に努め支援を行っていく。
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6		取り組み内容について、おたより等で家族等に周知している。	お便り以外での取り組みの発信方法について、検討していく。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6		朝礼や職員会議等でヒヤリハットを共有し、SHELモデルに沿った対策をとり、再発防止に向け検討している。	今後もSHELモデルに沿った対策を取り、再発防止につなげていく。
52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6		定期的に虐待防止に関わる研修を、オンライン研修や職員会議等でマニュアルの読み合わせ等を行っている。	今後も法人、職場内研修を通じ虐待防止の研修を重ねていく。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	6		事業所を利用されている子ども野中で、身体拘束を必要とする子どもがいないため、支援計画に記載していない。	やむを得ず身体拘束を行う事がある際には、保護者に身体拘束についての説明を十分に説明し理解を得る。支援計画にも記載し、身体拘束を行った記録を行う。	

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ひだまり水沢駅東 児童発達支援		
○保護者評価実施期間	年 月 日		年 月 日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	0名 利用実績なし	(回答者数) 0名
○従業者評価実施期間	令和7年1月6日		令和7年1月24日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 6名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年1月31日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	それぞれの利用者の理解度や発達段階に合わせた発信方法で、意思表示の仕方を覚え、社会性を身に付けられるよう支援しています。	絵カードや手順書等のツールを活用し、使い方について毎日統一した方法で、繰り返し取り組んでいます。スモールステップで成功体験を積み、自信に繋がれるようにしています。	日々の支援状況からアセスメントを取り、成長に合わせ支援内容を変更します。力の発揮に繋がれるよう取り組みます。
2	1階と2階に活動スペースがあり、部屋ごとに活動内容を分けることができます。玄関前にはスロープがあり、室内はバリアフリー化されており、1階には個室があり、個別の活動では集中した環境で支援を受ける事ができます。個室で小グループで過ごす事で個々との関わり、遊び等のルールを学べるようにしております。	様々な構造化を行い、利用者に分かりやすく表示し、部屋の使い分けができるようにしています。ルールやマナーについては、教材や手順を示すツールを使用し、理解しやすい方法で取り組んでいます。	日々の観察から、室内の構造化について検討し、利用者が安心、安全に過ごせる環境となるよう努めます。また、楽しく活動に取り組めるスペース作りを心掛けていきたいと考えます。
3	家族等や関係機関と連携を図り、情報共有や相互理解に努めております。	家族等とは、日頃より話しやすい雰囲気作りを心掛け、信頼関係を深められるようにしております。相談支援事業所とは、都度情報共有を行い、協力体制で進められるようにしております。	今後も家族に寄り添い、不安や困り感等について丁寧な対応を心掛け、信頼関係の構築に努めます。また相談を受けた際には、早急に時間を設けます。関係機関との連携を密に行い、円滑に進めることができるようにしていきます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	今年度は、放課後等デイサービスの利用者の利用状況が多く、定員の観点により、受け入れることが出来ませんでした。	お子様に安全に預かり、適切な支援提供を実施する為には、事業所の運営状況に応じて、検討していく必要があると考えます。	今後も事業所の運営状況に応じて、利用者の受け入れについて、相談支援事業所と連携を図り進めていきます。
2	利用される方がいない状況により、対象児に対する支援を実践する機会がありませんでした。	利用の申し込みを受けた際には、対応できるよう継続的に学ぶ機会が必要と考えます。	職員の専門性を高めるために、研修受講や日々の学びを通して、スキルの向上に繋がるよう取り組みます。
3			

公表 保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 ひだまり水沢駅東児童発達支援

公表日 年 月 日

利用児童数 年 月 日 回収数 利用実績なし

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。					
	2	職員の数配置は適切であると思いますか。					
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。					
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。					
適切な支援の提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。					
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。					
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。					
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。					
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。					
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。					
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。					
保護者への説明等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。					
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。					
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。					
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていますか。					
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。					
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。					
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。					
19	こどもや家族からの相談や申し入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申し入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。						

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。						
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。						
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。						
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。						
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。						
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。						
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。						
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。						
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。						
	29	事業所の支援に満足していますか。						

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		ひだまり水沢駅東 児童発達支援				公表日	令和7年 3月 31日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6		利用者の特性、相性などを考慮し、1階と2階を使い分け安心した気持ちで過ごせるよう配慮をしております。支援スペースを区切り、各スペースで過ごす人数を分散し、伸び伸び過ごせる工夫をしております。	現在児童発達の実績はありませんが、今後状況に合わせ、検討していきます。		
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5	1	利用者の特性、相性などを考慮し、基準を上回る職員配置を行っております。シフト作成の段階で適切な人数配置となるようにしております。	通常時には適切な人数配置ができておりますが、急遽の休職不良時等の場合には、少なくなる日もある為、応援等により対応していきます。		
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6		各スペースごとに構造化し、利用者が分かりやすいよう表示しております。玄関前にはスロープ、室内はバリアフリーになっており、トイレには手すりもあり、車椅子の方でも利用しやすいよう配慮を行っております。			
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6		室内や車内は、毎日清掃を行い清潔を保つようにしております。また、定期的に消毒をし、感染予防対策を行っております。教材や玩具等は、整理整頓し活用しやすくなるよう工夫しております。			
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6		要望に合わせ、室内を使うことが出来るようにしております。個室を用意し、集団が苦手な方の使用や、情緒面等に変化が生じた際の休憩、活動などに活用しております。			
業務改善	6 業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	6		毎日の朝会や職員会議で、全職員が日々の支援を振り返る機会を設けております。			
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		実績はありませんでしたが、受け入れの際には保護者からアンケートにて意向を調査し、改善点などを職員間で話し合い、改善に努めていきます。			
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		職員会議や朝会等で職員の意見を聞き取り検討しております。またその内容を業務改善につなげるよう努めております。			
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		6	現在実施しておりませんが、年1回第三者委員や顧問弁護士などへ報告する機会を設け、助言を頂いております。			
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	4	2	ZOOMでの研修や、年間計画に沿って内部研修を実施し、職員のスキルアップに繋がるようにしております。	外部の研修にも積極的に参加する機会が増えるようにしていきます。		
	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6		支援プログラムを作成し、公表しております。			
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	6		日々の利用者の状態を観察し、アセスメントに基づき、保護者のニーズと照らし合わせながら、必要なニーズを職員間で話し合い、計画を作成しております。			
	13 児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6		実績はありませんでしたが、受け入れの際には支援に関わる職員全員で、利用者の困り感やニーズについて話し合い、共通理解の下で計画を作成する体制は整えております。また、利用者の発達段階に合わせ検討を行っております。			
	14 児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6		実績はありませんでしたが、受け入れの際には全職員が、支援開始前には必ず支援計画を共有し、統一した支援を行うことができるよう体制を整えております。			

適切な支援の提供

15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6	実績はありませんでしたが、受け入れの際には日々の支援内容を共通のツールに記録し、観察から得た気付きを活かすよう努めています。毎日の朝会で振り返りを行い、必要に応じて改善を行っております。	
16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6	現在実績はありませんが、実施する際にはガイドラインに沿って、提供すべき支援「本人支援」「家族支援」「移行支援」及び「地域支援・地域連携」を踏まえて児童発達支援計画を作成し、都度利用者に必要な支援を行うようにしております。	
17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6	実績はありませんでしたが、受け入れの際には複数の活動担当が立案し、活動プログラムは職員全員で共有しております。	
18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6	5領域をバランスよく取り入れ、発達段階に応じて様々な運動、経験を通し楽しみながら次の学びへ繋がるよう工夫しております。	
19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	6	実績はありませんでしたが、受け入れの際には個々の発達状況や特性に応じて、個別活動と集団活動をバランスよく組み合わせる計画を作成し、支援しております。	
20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6	実績はありませんでしたが、受け入れの際には支援開始前に打ち合わせを行い、前回の活動の様子や利用者状況の確認や、当日の職員の動き方、支援内容について話し合いを行っております。	
21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6	実績はありませんでしたが、受け入れの際には当日または、翌日の朝会等で、職員間で振り返り、次回の支援に繋がるよう記録用紙に記入するよう体制を整えております。	
22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6	実績はありませんでしたが、受け入れの際には支援内容の他に服薬や体調等についても記録し、多面的な情報から検証や改善が出来るよう努めております。	
23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6	実績はありませんでしたが、受け入れの際には前期と後期にモニタリングを行い、取り組み状況について確認をしております。必要に応じて目標や具体的な支援内容の見直しを行うよう体制を整えております。	
24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6	管理者や児童発達支援管理責任者など利用者や家族の状況をよく把握している職員が参画しております。	
25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6	各関係機関と連携し、必要な支援提供をすることが出来るよう整えております。	
26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6	実績はありませんでしたが、受け入れの際には日々丁寧に情報共有を行い、連携を図るよう努めております。	
27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6	移行の際には、各学校と情報共有し、相互理解を図るようしております。	
28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。			
29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。			
30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。			
	(31は、事業所のみ回答)			

関係機関や保護者との連携

31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	6		必要に応じて助言や研修を受けるようにしております。	
32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		6		保育所等との園児と交流する機会については、必要に応じて今後検討していきます。
33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	6		実績はありませんでしたが、受け入れの際には日々保護者と情報を伝えあい、共通理解を図るよう努めるよう体制を整えております。	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6		法人全体の取り組みとして、家族等が参加出来る外部講師による研修会を開催しました。今後もお便り等を通して情報提供をしていきます。	
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6		実績はありませんでしたが、受け入れの際には運営規程や利用者負担等は、契約の際に説明しております。支援プログラムについては、保護者へ説明し配布しております。	
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6		実績はありませんでしたが、受け入れの際には定期面談の他、必要に応じて面談を行い、利用者やご家族の意向を確認する機会を設けるよう体制を整えております。	
37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	6		実績はありませんでしたが、受け入れの際には支援計画の説明は丁寧に行い、同意を頂いてから進めるようにしております。	
38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6		家族等から悩みや相談を受けた際には、早急に時間を設け、面談を行うようにしております。また、日頃から情報共有を図り、信頼関係を深められるよう努めるようにしております。	
39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	6		父母の会の活動においては、行事に関する文書を配置したり、保護者へ周知する協力をしてしております。きょうだい同士で交流する機会においては、必要に応じて検討しております。	
40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6		実績はありませんでしたが、受け入れの際には相談等を受けた際の体制は整備しております。相談等があった場合には、迅速に対応するように努めております。	
41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6		毎月お便りの発行やHPを更新し、活動内容や日の様子について発信しております。	
42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6		文書や配布物、写真などを含め個人情報の取扱いには気を付けるよう日頃から職員間で確認し、努めております。	
43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6		それぞれの利用者、保護者に応じた意思疎通が出来るよう工夫し、配慮しております。	
44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	6		事業所に招待する活動は実施していませんが、老人施設を訪問したり、地域行事への参加や商店への買い物を通して交流しております。	
45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6		各種マニュアルは玄関に配置し、いつでも閲覧できるようにしております。発生を想定した訓練は、年間計画に沿って、実施しております。	
46	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6		年間計画と共に策定し、非常災害の発生に備え、定期的に避難訓練を行っております。	
47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6		事前に服薬情報等把握し、職員全体で情報共有しております。面談時には、予防接種状況を把握できるようにしております。	
48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6		保護者から情報を頂き、必要に応じてアレルギー検査書の提出を依頼しております。おやつを含め食事提供をする際には、職員間で周知し、対応しております。	

非常時等の対応	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6		安全計画を作成し、職員で十分に検討した上で実施するようにしております。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6		実績はありませんでしたが、受け入れの際には送迎時や支援時の安全確保に関して、お便り等で保護者へ周知するようにしております。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6		当日や翌日の朝会で職員間で共有し、早急に原因や対策をSHELモデルにて分析して、再発防止に努めております。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6		法人内で虐待防止委員会を設置しております。虐待防止に関する理解を深めるよう、研修にも参加しております。また、年に3回、人権検閲チェックにて振り返る機会を設けております。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		身体拘束を行う際には、法人全体で周知し、組織的な取り組みとなるようにしております。実施する際には、職員間で支援内容の見直しを行い、都度会議で検討しております。保護者には、都度説明しながら進めており、計画にも記載しております。	

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ひだまり水沢横町 児童発達支援		
○保護者評価実施期間	令和7年1月6日		～ 令和7年1月20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数) 2名	(回答者数)	2名
○従業員評価実施期間	令和7年1月6日		～ 令和7年1月24日
○従業員評価有効回答数	(対象者数) 6名	(回答者数)	6名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年1月31日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	職員が統一した支援を行う事でお子様が迷う事なくルールを理解し、習慣化され成果に繋がっています。また、お子様への分かりやすさを常に職員で話し合って支援しています。	支援の中に様々な構造化を取り入れ、お子様にわかりやすく過ごしてもらうようにしています。部屋は活動や過ごし方により使い分けをし、お子様達へ伝えていきます。1人1人に合ったスケジュールを準備し、ひだまりでの過ごし方を見直しを持って過ごしてもらっています。統一した支援が行えるよう打ち合わせを毎日行っています。	毎日の支援の振り返りから、改善策だけでなく新しい取り組みを検討していきます。
2	褒めて伸ばす支援に取り組んでいます。職員と利用者の信頼関係の構築を高め、良い関係性で支援を行うことで「事業所へ行ってみたい」と思ってもらえる事業所を心掛けています。また、褒める支援を行うことで自己肯定感を高めます。	課題の取り組みや活動等は1人1人に合った内容を計画し、取り組んでもらっています。「できた」を増やし自信に繋がるようスモールステップを意識して支援しています。	職員間のスキルを磨くため、内部研修・外部研修の機会を増やす取り組みの検討を行います。細かいアセスメントを行い、更に「できた」を増やしていきます。
3	保護者にはなるべく丁寧に支援内容についてお話するようにしています。また、悩み事があった場合は共に考えるようにしています。	お子様・保護者へ丁寧な対応を心がけています。(支援・言葉遣い・対応)保護者の悩みを聞いた際は一緒に考え、時に情報を収集し、情報提供しています。「共に育てる」を意識して対応するようにしています。	保護者との情報共有の時間を作り、話しやすい環境作りを目指します。親子で参加できるイベントも検討していきます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	今年度は職員体制の充実化への取り組みに課題がありました。職員間の体調不良時に保護者へご協力をいただく機会が増えてしまいました。	国で定める職員配置基準で運営しているものの職員の体調不良時等不測の事態に対応するシステム作りに課題の要因があると考えています。	職員が意欲的に働き、質を高められるよう職員の働き方の見直しや体調管理等に努めます。また、不測の事態の際の対応システムの検討を行います。
2	地域清掃や地域の商店の活用は積極的に行っていますが地域住民との交流をする機会を設けられていません。また、保育所・幼稚園との交流にも課題があります。	事業所として考えている課題の要因は感染リスク等を考慮してしまうと地域交流や保育所・幼稚園等の企画が進めずにいる状況でした。	ひだまり水沢横町で企画を立て、交流する機会を作れるよう検討していきます。また、協力をいただけるよう関係機関との関係の構築に努めます。他の児童との交流の際に感染防止の配慮すべき点も検討します。
3	保護者とゆっくりお子様の様子を見ながらお話出来る機会が少ないと思っています。また、親子で参加できるイベントや保護者同士が交流を持てる機会がありません。	保育所・幼稚園との併行利用をしている為、時間を作る事に課題がありました。交流の機会やイベントを計画する事に課題がありました。	1人1人の利用者・保護者へ向き合い相談援助を出来るイベントを検討します。また、利用者がどのような環境でどのように過ごしているかを保護者へ伝える事に課題がある為、見学を出来る機会を検討します。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 ひだまり水沢横町 児童発達支援

公表日 令和7年 3月 31日

利用児童数 令和7年1月6日時点

回収数 2名中 2名

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応	
環境・ 体制 整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	1			1		集団で過ごせる広い部屋があり、その他に利用者が使用できる個室が5部屋あります。個室は隔離化されており、どこで何をするか分かるようになっています。	
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	1			1		配置基準を遵守しています。利用人数で勤務者を決めていきます。保護者へ事前に利用予定表を提出して頂き、人数の多い日はサービス調整を行い安全にお預かりできるようにしています。職員の体調不良の際はご察照に協力いただきました。	
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構成された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	2						
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	2						
適切な 支援の 提供	5 子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	2						
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	2						
	7 子どものことを十分理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	2						
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	2						
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	2						
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	2						
	11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他の子どもと活動する機会がありますか。					2	利用中ではないですが今現在、全ての利用者が保育所と並行利用となっている為、交流の機会が日常的にあります。	
保護者 への 説明等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	2						
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	2						
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	2						
	15 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況について共通理解ができてきていると思いますか。	2						
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	2						
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	2						
18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	2							

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	2				
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	2				
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	2				
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	2				
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	1		1		各マニュアルは、保護者がいつでも見られるように事業所出入口付近に設置し、便りて周知しています。発生した際の訓練や勉強会を実施しています。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	1		1		事業計画の中に規定し、実施しています。地震・火災・停電などを想定して年に4回は行っています。また、事業所にAEDが設置してある為、AED講習にも参加しています。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	2				
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	2				
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	2				
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	2				
	29	事業所の支援に満足していますか。	2				

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日			
ひだまり水沢横町 児童発達支援		令和7年 3月 31日			
	チェック項目			工夫している点	課題や改善すべき点
		はい	いいえ		
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6		集団で過ごせる広い部屋があり、その他に利用者が使用できる個室が5部屋あります。部屋は構造化されており、どこで何をすることが分かるようになっています。	
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6		配置基準を遵守しています。利用人数で勤務者を決めています。保護者へ事前に利用予定表を提出して頂き、人数の多い日はサービス調整を行い安全にお預かりできるようにしています。職員の体調不良の際はご家庭に協力をいただきました。	
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6		各環境ごとに構造化し、利用者がどこで何をすることがわかりやすく提示しています。完全なバリアフリーとなっており、トイレも広く車椅子の方でも利用しやすくなっています。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6		常に換気しています。定期的に事業所内や玩具、車内の消毒を行っています。活動場面に応じて部屋を変えて支援しています。(運動、制作活動等)	
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6		集団が苦手な利用者や個別対応が必要な場面で個別の部屋を使用しています。利用者が申し出た場合、部屋個別の部屋を提供しています。	
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	6		毎日の朝礼や職員会議、モニタリング会議等で職員に目標の周知、振り返りの話し合いを行いPDCAサイクルを実行しています。	
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		年に1回、保護者へ評価表アンケートをお願いし、保護者の声を受容し受け止め、職員間で改善に向けて取り組んでいます。取り組んでいる内容は便りでお伝えするようになっています。	
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		日々、支援や業務に関する内容は職員間で話し合う機会を設け、業務改善に向け、全職員で一丸となり取り組んでいます。	
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	6		第三者による外部評価は受けていませんが苦情やひやりはっと、事故報告を第三者委員と顧問弁護士へ報告する機会を設け、助言を頂いています。	
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	6		事業計画の中に研修計画を策定し、毎月の内部研修や外部による研修の機会を設けています。職員の経験年数に応じて研修へ参加しています。法人で行う全体研修もあり参加しています。	
適切な支援の提供	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6		事業所で作成した支援プログラムを保護者へ配布し、ホームページで公表しています。	
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	6		保護者が悩んでいる課題や近い将来必要なスキルの習得のため、利用者へ日々アセスメントを取り、課題整理し、児童発達支援計画を作成しています。	
	13 児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6		児童発達支援管理責任者を筆頭に職員間で児童発達支援計画やモニタリングについて日々、検討しています。また、自己肯定感が高まるように促める支援を心掛けています。	
	14 児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6		児童発達支援計画が職員間で共有できるよう、常に具体的な支援内容を見える化し、朝礼等で再確認しながら支援を行っています。	
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6		法人で統一したアセスメントシートを活用しています。また、事業所内で個々に合わせた支援ツールを準備し、アセスメントに活用しています。	
	16 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6		ガイドラインに沿って、提供すべき支援「本人支援」「家族支援」「移行支援」及び「地域支援・地域連携」を踏まえて児童発達支援計画を作成し、都度利用者に必要な支援を行っています。	
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6		活動プログラムは5領域を網羅するように工夫し、児童発達支援管理責任者を中心に職員がチームとなり立案を行っています。	
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		活動プログラムは5領域をバランス良く取り入れ、日々利用者が意欲的に取り組める工夫をしています。事業計画の中にも季節に合わせた行事を入れ、計画通りにプログラムを作成しています。	

19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	6		それぞれの利用者の状況や特性に応じて、落ち着いて過ごし療育が受けられるように対応し、個別と集団での活動を行っています。また、個々に合わせた児童発達支援計画を作成し、支援しています。	
20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6		毎回の朝礼で当日の支援内容について、打ち合わせを行い、それぞれの利用者に向けた支援ツールを準備しています。また、役割分担についても細かく確認して支援しています。	
21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6		翌日の朝礼で必ず、支援の振り返りを行い、気付いた点や課題について、次に繋がるように支援の見直しや検討をチームで行っています。	
22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6		利用時は必ず記録を取り、事業所の活動内容だけでなく、関係機関や家庭状況など細かく記録しています。また、記録を基に支援の検証をし改善策を検討しています。	
23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6		前期後期とモニタリングを行い、計画の具体的な支援を実施しているか、利用者の目標達成度はどうかを核としています。必要に応じて目標や支援の見直しを行っています。	
24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6		基本的に利用者の状況を良く理解している児童発達支援管理責任者、または担当者が出席しています。	
25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6		必要に応じて、関係機関との連携を図り、情報共有を行いながら支援をしています。（行政、学校、保育、障がい福祉、医療）	
26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6		保護者や相談員と共にむだまり水沢岡町と保育所との並行利用を推進しています。並行利用や移行する場合は必ず、保育所への見学や情報提供する機会を設け、連携を図っています。その後も見学や情報交換を行い支援しています。	
27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6		就学児の移行に関しては進学する学校先へ情報提供を行い、その後も情報共有を段階より行うようにしています。	
28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等積極的に参加しているか。				
31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	6		自立支援協議会の療育部会等でも連携を図る場を設けています。また、必要に応じて支援会議を設け、助言を頂いております。	
32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	6		利用中ではないですが現在、全ての利用者が保育所と並行利用となっている為、交流の機会が日常的にあります。	
33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6		利用時に保護者へ事業の様子や支援内容をお話しています。また、連絡帳でのやり取りも毎回行っています。出来た事を伝え、お家でも同じようにトレーニング出来るように方法について助言しています。	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6		今年度、法人主催で外部講師を招き、保護者が参加出来るペアレントトレーニング研修会を開催しました。また、保護者へ便りを送じてペアレントトレーニングの説明を行い、保護者懇話会で情報提供を行いました。	
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6		契約時に説明をしています。また、今年度から公開する事になりました支援プログラムについては、ご利用に保護者へ配布し、ホームページにも公開しています。	
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6		計画を立てる際は保護者と相談を行い確認しながら進めています。また、モニタリングの際も聞き取りを行っています。	
37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	6		支援計画の説明は必ず行い、同意を得てから進めています。同意のサインも頂いています。	
38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に対応し、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6		保護者から直接、悩みの相談を頂いた際には、早速に時間を作り面談を行うようにしています。また、相談員から悩みの情報提供を頂く場合もあり、お声掛けをさせて頂き、必要な助言を行うこともあります。	

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	6	保護者会の活動内容を便りに載せ、配布文書は事業所入口に設置し、各保護者へ周知しています。また、保護者同士が交流できるように懇親会の機会を設けました。今後も続けていきますので是非ご参加ください。	
	40	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6	毎年6～7月に保護者面談を開催しています。また、必要に応じて相談に応じ、共に考え、助言しています。サービス利用が移行される際は面談、面談を設け、不安が少なくなるように対応しています。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	6	毎月、事業所から月末に便りを発行し、事業所の活動内容や利用者の様子等をお伝えするようにしています。苦情要望があった際の流れも便りでお伝えしています。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6	定期的に職員へ周知し、個人情報の取り扱いについて、勉強する機会を設けるようにしています。(朝礼・職員会議) また、内部研修でも取り入れ周知しています。	
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6	障がいに対する研修やその保護者への支援に対して、内部研修を行い、対応が出来るようにしています。引き継ぎの際に申し送りを行い、連絡簿にて支援の詳細を記載しています。また、必要に応じ、電話等でお話をする事もあります。常にお話のしやすい環境を作るようにしています。	
非常時等の対応	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	6	活動では地域の商店での買い物や外食をする機会を設けるようにしています。また、定期的に地域清掃を行っています。(ゴミ拾い・草取り)	
	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6	各マニュアルは、保護者がいつでも見られるように事業所出入口付近に設置し、便りでも周知しています。発生した際の訓練や勉強会を実施しています。	
	46	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6	年間計画と共に策定し、非常災害の発生に備え、活動に反映するようにしています。また、その訓練も行おうようにしています。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	6	利用前の面談時に母子手帳を持参していただき、予防接種の履歴を行っています。また、服薬状況や既往歴については詳しく聞き取りを行い、記録しています。	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6	アレルギーに閉しても利用前の面談時に聞き取りを行い、必要に応じてアレルギー検査書の提出をお願いし、対応しています。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6	リスクマネジメント研修に参加し、参加した者が職員へ伝達を行い、対策について実施しています。また、マニュアルに沿って対応するようにしています。ひやりはつとや事故が起きた際はSHELモデルを用いて、広い視野で対策について話し合い改善しています。	
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6	安全計画に関してはホームページに掲載している事を周知しています。また、訓練等の取り組みは連絡簿や便りで発信しています。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6	ひやりはつが発生した際は早急に対策について話し合い、対応しています。広い視野を持ち検討出来るようにSHELモデルを用いて検討するようにしています。ひやりはつと対策については便りでも保護者へ周知しています。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6	事業所毎に委員を設置し、法人内で委員会を開催しています。また、法人内で研修の機会を設け参加しています。年に3回人権尊重チェックに取り組み支援の振り返りを行っています。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	6	身体拘束を行う際は法人全体に周知し、対応するようにしています。また、身体拘束を行う際は、保護者の見直しを行う為、会議を開き検討するようにしています。保護者にも都度説明を行いながら進めます。		

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ひだまり胆沢 (児童発達支援)		
○保護者評価実施期間	令和7年1月16日		令和7年1月22日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	1	(回答者数) 1
○従業者評価実施期間	令和7年1月6日		令和7年1月14日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月6日		

○分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	構造化により利用者に視覚によりスケジュール等が確認でき おり、安心して活動している。	ホワイトボードにスケジュール等を表示し、利用者が視覚的に 確認できている。	利用者が来た際に、声掛けをし、スケジュールを確認すると いう工程を定着させる。
2	利用児童の発達段階に応じた課題が設定できている。	アセスメントをきちんと行った上で、課題の設定を行ってい る。	毎日の支援内容を振り返った上で、翌日以降の支援に反映で きるようにし、課題についても見直しができるように対応し ていく。
3	利用者一人ひとりに個別の支援が確実に行われている。	職員の利用者の活動担当を決めた上で、支援を行っている。	利用者が安全に活動できるよう、職員が確実に見落とさない ようにするとともに、職場内外の研修に参加しスキルアップ を図る。

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業所が掲示しているマニュアル及び非難訓練等の実施が、保 護者に知れ渡っていない。	帰りのお迎えの時に説明し、その旨を連絡帳に記載したり、月 1回のひだまり通信で避難訓練の様子を写真を入れて掲載して いるが、もう一歩踏み込んで説明することが必要。	非常時の発生に備えたマニュアルの確認、訓練、連絡網の確 認を確実に行った上で、保護者に積極的に情報を発信し情報 共有を図る。実際に行った様子の写真を玄関口に張り出す等 の視覚化を行い保護者の迎えの際に説明する。
2	保護者参加の行事の周知が遅れている。	新たな行事等で内容を吟味していたため、周知が遅れた。	保護者対象の行事は、参加しやすい内容とし、一月以上前に 連絡し周知を図る。 週1回利用の方への連絡が遅れがちなので直接電話等で連絡し 周知を図る。 内容充実のため、職員のスリルアップを図る。
3	個別の部屋が確保できないなど、活動のスペースが限られる。	借家のため、構造的にスペースを変更できない。	成長段階、活動内容に応じた場所の設定を常に考え、パー テーションで仕切りをつけるなどの配慮が必要である。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 ひだまり園沢 (児童発達支援)

公表日 令和7年3月31日

利用児童数 令和7年2月1日 1人

回収数 1

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1	子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	1					
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。				1		
	3	生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	1					
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	1					
適切な 支援の 提供	5	子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	1					
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	1					
	7	子どものことを十分に理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	1					
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	1					
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	1					
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	1					
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他の子どもと活動する機会がありますか。				1	活動に参加していないためわかりません	
保護者 への 説明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	1					
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	1					
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	1					
	15	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況について共通理解ができていますか。	1				親身にご対応いただきとても感謝しております。	
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	1					
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	1					
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。				1	活動に参加していないためわかりません。	
19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	1						

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	1					
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	1					
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	1					
非常 時 等 の 対 応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	1					
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	1					
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	1					
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	1					
満 足 度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	1				どの職員さんも、声掛けて下さるので安心している様です。	
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	1				楽しめる工夫をして下さり、ありがとうございます。	
	29	事業所の支援に満足していますか。	1				どの職員さんも、家族の考えに寄り添って下さるので大変感謝しております。	

公表 事業所における自己評価結果

事業所名		公表日 令和7年3月31日			
ひだまり胆沢（児童発達支援）					
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6		扉で仕切られるスペースに着替えの場所として使用する他特性に応じて個室として使用する等配慮しながら環境調整を行っている。	
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6		子ども達が長期休暇等の際、早番をつけるなど、早番退勤後の体制が少人数になるが、協力し合い適切に対応している。	
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6		構造化により、プレイルーム、食堂、学習スペース等の環境設定を行っており、バリアフリー化されている、トイレは車いすのまま入れないが、手すりが付いており段差もない。小上がりに上がる際、おりる際には声掛けをして支援している。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	6		清掃、消毒等はチェックリストに記入し徹底している。活動内容により机やイスの配置を工夫し環境調整を行っている。	
	5 必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5	1	仕切り、パーテーションを使用しながら、利用者の特性に応じた場所の確保を行っている。	
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	6		朝会、職員会議等情報共有し、全スタッフで意見を出し合い、実行し振り返りを行い支援している。	
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		評価結果をスタッフで共有し、課題を感じられる項目については、改善案を出し合い業務改善の努力をしている。	
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		朝会、職員会議等で意見をだしあい、児発を中心に改善に繋げている。	
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	1	5		監事による内部監査を年1回行っているが、第三者による外部評価は実施されていない。
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6		必要に応じた外部研修への参加、及び年間計画に沿った内部研修を実施している。	
適切な支援の提供	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6		5領域との関係性を明確にした支援プログラムの作成を行い、ホームページで広く公表している。	
	12 個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	6		アセスメントから課題を整理し、保護者からの意向をうかがいながら作成している。	
	13 児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6		児発が中心となり計画作成を行っているが、全スタッフに計画案について目をとおしてもらい検討した上で、共通理解を図っている。	
	14 児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6		職員会議、又は日々の支援の中で、お互いに意識し共有しながら支援を行っている。	
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6		事業所内で使用しているアセスメントシートを用いて特性を理解し、日々の行動観察を行いながら職員間で情報共有をしている。	
	16 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6		親からの聞き取りや普段の様子やケース記録を基に、ニーズに合わせた支援内容を設定するよう努めている。	
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6		活動立案の担当者を月毎に決め、2人1組で順番に行い、職員会議で活動内容の周知をしている。	
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		状況やメンバーに応じて個別又は集団プログラムを組み合わせて提供している。	

19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	6		個々の課題やニーズに合わせて作成し支援している。集団活用は遊びを中心とした活動の中での支援計画を作成し支援している。	
20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6		毎朝朝会にてその日の支援内容と役割分担について確認している。	
21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6		支援終了後は難しい為、良く痣の朝会にて共有している。又、気付いた点等は職員連絡帳に記録し、その日公休の職員にも伝えている。	
22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6		個別の連絡帳に記録し、特記は別の記入欄に記録して必要に応じて支援の振り返りを行うことができるようにしている。	
23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6		年2回行っており、適切な見直しを行っている。	
24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6		児童を中心に、必要に応じて主に支援する担当者も併せて出席している。	
25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6		必要に応じて、保育、教育等の関係機関との支援に対する情報共有の体制をとっている。	
26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5		必要に応じて、利用者の特性に配慮した支援方法、内容について担当者間で情報共有を行っている。	
27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6		今年度対象児童1名について、今後日程調整を行い情報共有の機会を設ける。	
28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	6		必要に応じて相談員を介し、支援の助言や情報共有が出来る機会を設けている。	
32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		6		機会を設けていない。
33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6		迎え時、その日の様子について丁寧に伝えている。	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6		5月に研修を行った際は、保護者へお知らせを配布し、広く情報提供を行った	今後、ペアレントトレーニングについて職員のスキルアップが必要である。
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6		契約時に行っている。	
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の視点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6		相談からの情報提供計画も参考に、ニーズや課題について統一した内容とした支援計画作成を行い同意を頂いている。	
37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	6		対面にて説明を行い同意を得ている。不明な点や確認があった際には、児童が対応し都度説明を行っている。	
38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6		年1回面談の機会を設けている。又、必要に応じて面談の機会を設け、家庭での悩みや有効的な支援方法について情報共有している。	

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	6		きょうだい同士の交流の機会は設けていないが、保護者懇談会の開催を企画し交流の場の提供をしている。又、おたよりにて保護者会からのおしらせを掲載するなどのお手伝いをしている。	
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	9		相談員とも連携しながら、ご家庭と連絡をとりあい、丁寧な対応を心掛けている。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	6		毎月1回のおたより発行、又は法人の広報誌、HPにて情報発信をしていく。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6		マニュアルに基づき留意している。写真掲載に関しては保護者から同意を頂いている。年4回人権擁護チェック表にて振り返りを行うなど留意している。	
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6		特性に応じて、文字、絵カード、ジェスチャー等を組み合わせ伝えている。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	2	4	地域の芸術祭への出展や、地域の高齢者施設の訪問等、可能な範囲内で事業運営を図っている。	
	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6		訓練に関しては計画に沿って年4回行っている。各マニュアルに関しては、玄関に常備し保護者が確認、周知できるようにしている。	
非常時等の対応	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	2	4		BCPの策定は行ったが、訓練は未実施である。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	6		利用開始前に、定期通院、服薬、発作等の確認を行っている。	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6		保護者への聞き取りにより配慮を必要とする場合は対応をしている。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6		計画に沿った訓練、研修及び必要に応じて外部の研修にも参加している。	
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6		マニュアルに沿った対応を行い、緊急時には提出を頂いた緊急連絡先へ連絡することを確認している。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6		朝会及び職員会議等で共有し、早急に対応策を検討し、実施している。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6		内部研修、全体研修の実施、年4回の人権擁護チェックを行っている。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。		6		今年度対象となる利用者はいない。

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ひだまり水沢☆きりり 児童発達支援		
○保護者評価実施期間	令和7年1月6日		～ 令和7年1月22日
○保護者評価有効回答数	(対象者数) 7	(回答者数)	7
○従業員評価実施期間	令和7年1月6日		～ 令和7年1月22日
○従業員評価有効回答数	(対象者数) 7	(回答者数)	7
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月28日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	重症児、医療的ケア児に特化した事業所である為専門職からの話を聞くことが出来る。 又、送迎時保護者の方には時間をかけて情報提供しています。	小児科医、理学療法士、看護師等からの話は常に職員、保護者の方と情報共有している。 それにより個人に合った身体へのアプローチ又、個別支援計画に沿った療育を行っている。	専門職の先生たち来所時にはどンドン親御さんに声をかけて今よりももっと事業所に来て頂くようにしたい。 職員、保護者ともに先生たちのお話を聞く機会を設けたい。 職員のよりレベルアップを図りたい。
2	関係機関との多職種連携が出来ている。	併行通園の利用児送迎では時間をかけて支援内容を話し共通理解をはかっている。 又、医療機関、行政と情報交換している。	多職種の方達と今まで以上にこまめに連絡を取り職員間でも情報共有します。
3	同年代による集団生活は出来ないが、個々にあった手厚い支援が受けられる。	個人の能力が引き出せるよう個人個人に時間をかけている。	今まで以上に5領域に沿った総合的な支援、療育を目指しより多くの経験を積み成長を促します。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	情報発信の仕方、説明不足を感じた。	今回の結果において「どちらともいえない」「分からない」の回答が多かった。ご利用開始間もない事もあるのだからが私たちの発信の仕方が不足していると感じる。又、避難訓練、災害時避難についても情報発信が少ないと思われる。	毎回、保護者には丁寧な話と情報交換が必須と考える。利用児には慣れていただく事を最優先に支援内容をお伝える。避難訓練、災害時避難についてもお便りとお手紙等で丁寧に情報発信をしていかなければと考える。
2	他保育園、こども園との交流はしていない。又、地域との交流も積極的にしていない。	感染症が怖くて交流は全くしていない。 買い物や散歩等でご近所におもむきご挨拶や話は積極的にしているが交流となると違うものと考えている。	感染症の様子を見ながら交流のやり方を工夫する必要があると考える。
3	保護者同士の交流の場が少ない。	ここ何年か感染症の広がりがあり重症児、医療的ケア児にとってはつらい日々だった。積極的に交流はしていなかった。	今後、今までより多くご家族で楽しめる事を企画したい。

公表 保護者等からの事業所評価の集計結果 (児童発達支援)

事業所名 ひだまり水沢☆きりり 児童発達支援

公表日 2025年 3月 31日

利用児童数 令和7年1月1日 7名

回収数 7名

	チェック項目	評価				ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	7					
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	5	1		1		150%の利用定員になる場合には、常勤職員全員配置していますが、多くの介助を必要とする利用児童に対して不便をかける場合もありました。今後は時間配分を考えながら子ども達が安心して過ごせるよう職員間で見守りを強化します。
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	6	1				段差がある場所はありませんが、マットを敷いている為、その段差に気をつけなければならない場面もあり、子ども達の見守りを強化することで改善できると考えます。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	7					
適切な 支援の 提供	5 子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	6	1				今回「どちらともいえない」と評価を頂いた保護者様は現在まで数回の利用を頂いておりませんが、今後利用回数を重ねて頂き重症児・医ケア児である子どもの特性を保護者様としっかり情報を共有しながら保護者様に寄り添った支援をしていきます。
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	6			1		脳症児・医ケア児の子ども達の発達段階に合わせ職員間で話し合い適切に支援プログラムを作成しています。保護者様へは支援プログラムの丁寧な説明をしています。
	7 子どものことを十分に理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画(個別支援計画)が作成されていると思いますか。	6	1				子どもたちの今の健康状態を考慮状況を把握し、保護者様のニーズも踏まえて個別支援計画を作成しています。安全に過ごせる支援を心掛け、保護者様に寄り添い丁寧な説明をしています。
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	6			1		ガイドラインに沿って支援プログラムに掲載している支援に必要な項目を適切に設定しています。具体的な支援内容を掲載し、保護者様へ丁寧な説明をしています。
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	6			1		支援プログラムには5領域を必ず取り入れる取り組みをしています。週に一度は必ず個別活動を入れており、余裕の時間にも計画に沿って支援しています。今後も継続し、保護者様へ寄り添いながら支援していきます。
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	6			1		●季節にあったイベントがあり良いと思った。 リハビリ、動作法訓練等固定化しているものもありますが、本人支援として様々な経験ができるように工夫しています。活動が利用児童にとって楽しく、そして様々な経験ができるように継続していきます。
	11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他の子どもと活動する機会がありますか。	4	2		1		●毎日の活動では機会がないが、イベント情報としてチラシ、ポスターの情報や提供がある。 健常者の子ども達との交流に関しては慎重な考えの保護者も多し、活動の機会を見つけています。利用児には保育園との並行送迎をしている児童もいます。今後は保護者の意向に添いながら計画を立てていきます。
12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	7						
13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	7						
14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	7						

保護者への説明等	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	7				●とても丁寧に伝えて下さるので安心して預けることができます。リハビリの様子なども教えて頂けるので助かります。	今後も保護者様に寄り添いながら丁寧な説明を継続していきます。	
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	6	1				送迎時または改めて時間を設け、聞き取りの機会を作り保護者様からの悩みや相談には出来る限り積極的支援を心掛けています。医療的ケア児や発作がある児童に関しては看護師が聞き取りを行い必要な助言をおこなっています。今後も保護者様に寄り添いながら丁寧な説明を継続していきます。	
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	6	1					重症児・医療ケア児の利用児童への意思疎通は看護師を始め、職員も表情を見ながら、今何が必要であるか、体調はどうなのか気をつけて支援をしています。今後も小さなサインから心身の異常に気付けるようきめ細かな観察を行います。
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	6			1		●クリスマス会などきょうだいで参加でき、とてもありがたいです。	保護者会からのお知らせ等は事業所で配布しています。スプリングコンサートやクリスマス会を企画し、保護者様やきょうだいにも参加を促し保護者同士の交流の場を設けています。今後は定期的に保護者同士の茶話会などを企画して更に交流を深めていこうと考えています。
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	5			2			保護者の意見・要望は最大限受け入れる態勢を整えています。難しい場合には何故できないかを丁寧に説明し納得して頂いています。苦情に関しては苦情受付担当者と責任者を配置し毎月のお便りにも掲載しています。
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	6	1					重症児・医療ケア児の利用児童への意思疎通は看護師を始め、職員も表情を見ながら、今何が必要であるか、体調はどうなのか気をつけて支援をしています。子どもの様子は朝礼時に職員間で情報を共有し、送迎時には子どもの様子を保護者様へ話をしています。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	7						
22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	7							
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	6	1					玄関先にいつでも閲覧できるようにマニュアルを配置しています。面談時にはマニュアルについても保護者へ丁寧な説明をするよう心掛けます。職員間では職員会議でマニュアルの読み合わせを周知し、すぐに動けるようになっています。今後は、防犯の発生を想定した訓練を実施し、子ども達の見守りを強化します。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	5			2			地震・火事・水害を想定し、年4回の避難訓練を実施しています。水沢いきなりりは災害があった場合の避難場所になっています。今後、保護者へも水沢いきなりりが避難場所になっていることを周知して頂くよう普段から情報を共有していきます。
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	6	1					重症児・医療ケア児は看護師が保護者から聞き取りを行い、安全に支援できるよう職員間で情報を共有しています。誤嚥など危険がある児童やてんかん発作がある児童に関しては、記録をとり情報を共有した中で支援を行っています。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	5	1		1			起こった場合には報告書を必ず作成し、保護者へは丁寧に説明しています。何が起こったのかを職員で検証し、反省点を踏まえ、同じ事が繰り返されることのないように職員間で注意し見守りを強化するよう努めています。

満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	6	1			今回「どちらともいえない」と評価を頂いた保護者様は現在まで数回の利用を頂いておりましたが、今後利用回数を重ねて頂き重症児・医ケア児であることの特徴を保護者様としっかり情報を共有しながら保護者様に寄り添った支援をし、安心して通所して頂けるよう職員一同努力していきます。
	26	子どもは通所を楽しみにしていますか。	6			1	「わからない」との評価があり、今後は利用回数を重ねて頂き、子どもの笑顔がたくさんでるような活動や他のお友達とのコミュニケーションもとれるよう職員一同努力していきます。
	29	事業所の支援に満足していますか。	6			1	<ul style="list-style-type: none"> ●ひだまり水沢さきりさんがあるおかげで安心して仕事復帰することができました。本当に日々感謝の気持ちでいっぱいです。 ●いつも臨機応変な対応をして頂き大変助かっています。 とても良い評価を頂き、職員一同嬉しく思います。しかし「わからない」との評価もありました。今後は利用回数を重ねて頂き、子ども達が安心して過ごせる場所であることを保護者様へ理解して頂くよう職員一同さらに努力していきます。

公表

事業所における自己評価結果（児童発達支援）

事業所名		ひだまり水沢☆きりり 児童発達支援		公表日		2025年 3月 31日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7	0	●150%の利用定員になる場合には狭く感じることがあるが、多目的ホールや指導訓練室等を物品の収納をごまめに行い、うまく利用している。	●車椅子やバギーを使用している児童が多いため部屋を分け、児童の行動パターンを予測し、子ども達が安心して過ごせる適切な空間作りをしていく。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	4	3	●150%の利用定員になる場合には、常勤職員全員配置している。	●介助を必要とする利用児童に対し、常勤5人の職員では利用児童に対して不便をかける場合もあり、職員の疲労もある。子ども達の見守りを強化し、職員の休憩時間を確保することが課題である。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7	0	●全ての部屋がバリアフリーになっている。 ●定期的に設備・危険箇所点検を行い、安全に過ごせる環境作りをしている。	●段差がある場所はないが、マットを敷いている為、その段差に気をつけなければならない場面がある。子ども達の見守りを強化することで改善できると考える。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7	0	●清掃、消毒、換気は毎日行っており、記録表を準備し記録している。	●今後も毎日の記録をとり、心地よく過ごせる環境づくりを心掛けていく。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7	0	●子ども達の状況により部屋を使い分けられる環境になっている。	●今後もおもちゃで遊ぶ部屋や午睡で休む部屋など区別し、体調が優れない子は個別に休めるよう部屋を区別していく。	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	7	0	●朝礼や職員会議で話し合い、児童の様子を職員間で共有しながら、都度振り返りを行い、児童一人ずつの共通理解を図り、支援につなげている。	●今後も都度の振り返り、問題が出た場合には早急に話し合いの場を設け、子ども達が安全に過ごせるよう努めていく。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	0	●年1回の保護者向けアンケート調査を行い、結果については職員間で共有し業務改善に努めている。	●常に保護者とは情報共有し、要望・意見は出来る限り聞き、業務改善に努めていく。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	0	●朝礼時や職員会議などに話し合い業務改善に努めている。	●今後も職員の意見など都度話し合いを続け、業務改善に努めていく。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	7	0	●内部監査を受けている。	●指摘事項はないが、改善すべき所は都度、職員間で話し合い改善していく。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7	0	●様々な研修を受講する機会がある。 ●研修を受けた者が事業所内研修で伝達している。	●機会は確保されているが、朝からの利用児童が多い場合、受講するのが難しい場合がある。 ●全員参加で研修を受けることは難しいが、重症児・医ケア児の研修は曜日を変えて受けるように努力している。	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7	0	●ガイドラインの発達5領域や子どもの発達段階に合わせ職員間で話し合い適切に作成されている。 ●保護者へも面談時に説明し、個別支援計画と一緒に渡している。	●今後も子ども達の発達段階に合わせ職員間で話し合い適切に支援プログラムを作成していく。都度、保護者へは支援プログラムの丁寧な説明をしていく。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	7	0	●一人ひとりの子どもが現在どのような状況なのか、現在支援すべきことは何なのかを職員間で話し合い、支援計画を作成している。	●今後も子ども達の今の状況を把握し、保護者のニーズも踏まえて、安全に過ごせる支援を心掛け継続していく。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7	0	●関わる職員そして看護師や理学療法士の意見も聞きながら、子どもにとって最善の利益を考慮した検討が行われている。	●主体的にならないように職員全員で5領域を念頭に作成していく。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7	0	●それぞれの個別支援計画を書き出し表にして張り出している。 ●週に1度は必ず活動に個別活動を入れ、余暇の時間にも計画に沿って支援している。	●今後も5領域を必ず取り入れる取り組みを継続していく。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7	0	●気になる行動は個別特記として記録している。その中で行動が気になる利用児童に関してはスケジュール等のツールを使用し日々行動を観察し記録を残している。	●スケジュールにSSTを組み込み取り組むことなど、日々の行動観察を記録にとり、職員と情報共有、確認することを今後も継続していく。	

適切な支援の提供	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7	0	●ガイドラインに沿って支援プログラムに掲載している支援に必要な項目が適切に設定され、具体的な支援内容を掲載し、保護者へも説明している。	●今後も支援プログラムの具体的な支援内容に取り組むように努力していく。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7	0	●専門的支援方法については動作法やストレッチを強化し支援している。	●重症児・医ケア児の為に職員が療法士より教示を受け、日々動作法やストレッチをしており、今後も継続していく。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7	0	●リハビリ、動作法訓練等固定化しているもの以外は、本人支援として様々な経験ができるよう工夫している。	●活動が利用児童にとって楽しくそして様々な経験ができるよう継続していく。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	7	0	●集団活動と一人ひとりのリハビリ等を組み合わせて支援している。	●身体面や発達面で違いがある為、職員間で話し合いをし、全員活動に参加できるように工夫し支援している。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7	0	●朝礼で毎朝打ち合わせを行い役割分担の確認を行っている。	●気になることがある場合には、その日のうちに話し合い情報共有をし、チームで連携して支援を行っている。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7	0	●気づいた点は必ず職員連絡帳に記入し、気になる事がある場合には、その日のうちに話し合いをしている。	●児童の健康状態やケアに関する事は必ず職員で共有している。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7	0	●個人の連絡帳や職員間の連絡帳、また保護者からの情報などについても記録を取るようにし、必要に応じて支援の検証・改善を行っている。	●今後も気になる事は必ず記録を取り、子ども達にとって良い支援に繋げるようにしていく。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7	0	●PDCAサイクルに沿って年2回のモニタリングを行い、適切な見直しを行っている。	●モニタリングは保護者へ説明し振り返りを行い、保護者の意向も踏まえ児童発達支援の計画を見直ししている。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7	0	●児童発達支援管理責任者と場合によっては看護師が参画している。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7	0	●医療に関しては保護者からの理由が多いが、必要時は必ず協働体制を取り、対応している。連絡体制は整えている。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	7	0	●併行通園する保育園や幼稚園とは連絡を密に取り、障害児の児童の食事風景や事業所での過ごし方等、それぞれの保育園や幼稚園と情報共有し共通理解を図っている。	●水沢みさりの職員が保育園での過ごし方や支援会議に参加し、相互理解に努めている。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	7	0	●就学児には支援内容等の情報共有をし相互理解を図っている。	●今後も伝えていかなければならない内容等は情報を提供し、相互理解に努める。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	7	0	●地域自立支援協議会、医療的ケア児等支援部会の部会長として管理者が参加している。自立支援協議会、療育部会情報交換会に児発管が参加し、職員と情報共有している。	●今後も地域の情報交換会に参加し、スーパーバイズの助言等を受け、地域との連携を図っていく。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	0	7	●健常者の子ども達との交流に関しては慎重な考えの保護者も多く、活動の機会は見附けている。	●児童発達の利用児には保育園との並行通園をしている児童もいる。今後は保護者の意向に添いながら計画を立てていく。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7	0	●連絡帳に日頃の状況を伝えたり、送迎時などにその日の様子を口頭で伝え保護者からも話を聞いている。	●今後も積極的に関わりを持ち発達状況や課題について話し合いをし共通理解をしていく。
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	7	0	●重症心身障がい・医療的ケアに対しての悩みや相談に関しては当事者でもある管理者が対応し支援を行っている。	●今後も職員としての専門性向上のために研修等に参加して理解を深めていく。	
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7	0	●契約時には説明をしている。なるべくわかりやすく説明するように心掛けている。	●今後も保護者に疑問点や質問があればその場で回答、解消できるように努めていく。	

保護者への説明等

非常時等の対応

36	児童発達支援計画を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7	0	●子どもの最善の利益を最優先に考え、保護者の意向を確認し、児童発達支援計画を作成している。	●今後も保護者の意向を確認しながら子どもの最善の利益を最優先に考え、保護者と話し合いの場を設け作成していく。
37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	7	0	●年2回のモニタリングを行い支援計画の見直しをし、保護者とは必ず面談の機会を設け説明し、同意を得ている。	●今後も丁寧な説明を心掛ける。
38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7	0	●送迎時または改めて時間を設け、聞き取りの機会を作り保護者からの悩みや相談には出来る限り積極的支援を心掛けている。	●医療的ケア児や発作がある児童に関しては看護師が聞き取りを行い必要な助言をおこなっている。
39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	7	0	●保護者会からのお知らせ等は事業所で配布している。スプリングコンサートやクリスマス会を企画し、保護者や兄弟にも参加を促し保護者同士の交流の機会を設けている。	●今後は定期的に保護者同士のお茶などを企画して交流を更に深めていこうと考える。
40	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7	0	●保護者の意見・要望は最大限受け入れる姿勢を怠っていない。難しい場合には何故できないかを丁寧に説明し納得して頂いている。	●苦情に関しては苦情受付担当者として責任者を配置し毎月のお便りにも掲載している。
41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	7	0	●毎月1回きりだよりを発行している。在宅の利用児童にも必ず発送している。HPにも活動の様子や行事の様子は必ず掲載している。	●契約時に広報誌・HP（氏名・写真・年齢）に掲載することについて同意書に「同意します」との署名を頂いている。「同意しません」の場合は掲載を控えている。
42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7	0	●個人情報は常に注意を払うように心掛けている。	●個人ファイルは鍵付きの書庫にファイルしており、職員以外が閲覧できないようになっている。
43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7	0	●重症児・医療的ケア児の場合にはお話できる子は何を望んでいるのか、自分が話せるまで待ち、お話ができない子は表情や体の動きを見ながら、何がしたいのかを職員間で共有しながら支援している。	●保護者には言葉使いに配慮しながら、丁寧な説明をしている。
44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	0	7	●水沢☆きらりの児童達は風邪でも重症化する児童が多いため、感染症が心配され今現在は控えている。	●地域にはお知らせ版や広報等を配布し、開かれた事業運営ができるよう努めていく。
45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7	0	●玄関先にいつでも開覧できるようにマニュアルを配置している。面談時にはマニュアルについても保護者へ説明をしている。職員間では職員会議等でマニュアルの読み合わせをし、周知している。	●マニュアルは周知し、すぐに動けるようにはなっているが、防犯の発生を想定した訓練を実施できるように努めていきたい。
46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7	0	●地震・火事・水害を想定し、年4回の避難訓練を実施している。 ●水沢☆きらりは災害があった場合の避難場所になっている。	●今後、保護者へも水沢☆きらりが避難場所になっていることを周知して頂くよう普段から情報を共有していく。
47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	7	0	●重症心身障がい、医療的ケア児を預かる事業所なので服薬やてんかん発作等の状況はとても大事な事である。その為、保護者とは密に情報共有をし子どもの状況を確認している。	●今後も子ども達の体調管理も含め、子どもの状況を確認し、保護者とは密に情報共有をしていく。
48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7	0	●食物アレルギー児童はいない。	
49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7	0	●誤嚥など危険がある児童やてんかん発作がある児童に関しては、記録をとり情報を共有した中で支援を行っている。 ●重症心身障がい者育成研修を受けている。	●発作や誤嚥など危険があったことを想定した訓練を定期的に行うよう努める。
50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7	0	●てんかん発作や医療的ケアの児童達への支援については看護師が家族と情報共有をしながら何かあった場合には職員・家族と連携が取れるようになっている。	●今後も職員・家族とすぐに連携がすぐにとれるよう努めていく。
51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7	0	●起こった場合には報告書を必ず作成し、職員間で話し合い検証している。	●反省点を踏まえ、同じ事が繰り返されることのないように職員間で注意をし見守りを強化するよう努めている。
52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7	0	●法人で虐待防止委員会を設置し、各事業所の委員が会議を行い中心となって虐待防止に努めている。また、年3回の人権擁護セミナーを行い、虐待防止委員会での会議で話し合われた結果を職員会議で職員にフィードバックをし振り返りを行っている。	●今後も、虐待防止の取り組みを職員間で情報を共有しながら適切な対応をするようにしていく。
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	7	0	●車椅子や座位保持椅子の使用に関しては保護者から同意を得ている。	●座位がとれない利用児は座位保持椅子や車椅子を使用しているが、座りっぱなしにならないようにしている。